

通常登校へ移行

いよいよ通常登校が開始されます。久しぶりに全員そろっての学校生活となります。今まで以上に、感染症防止対策に気を配ってください。

大切なことは、まず第一に、自分自身の「**体調・健康状態を毎日把握する**」ことです。自宅で朝夕の検温を行い、発熱等の風邪の症状がある場合などには無理をしないでください。

二つ目は、「**手洗い・マスクの着用を含む咳エチケットの徹底**」です。特に、手洗いは有効です。最近、疎かになっていませんか？登校したら、まず手洗いを行うとともに、外から教室に入る前やトイレの後、昼食の前後など、こまめに手を洗う習慣を継続してください。

三つ目は、「**免疫力を高める**」ことです。「十分な睡眠」、「適度な運動」及び「バランスの取れた食事」を心がけましょう。

その上で、もうひとつ気を配ってほしいことがあります。それは、新たな関係作り、クラス内でのコミュニケーションです。これまでは、出席番号の奇数と偶数で登校日が異なっていたため、顔なじみの級友は半分だけという状況です。ぜひとも、意識して声かけを行ってみてください。

私たちが行うコミュニケーションには、言葉によるものだけでなく、表情や視線、声の大きさやトーンなどによる非言語的なコミュニケーションもあるといわれています。そして、非言語的なコミュニケーションが果たしている役割はとても大きなものがあるのだそうです。SNSなどではなかなか伝えられない部分です。ですから、文字だけによるコミュニケーションは、思いもよらぬ誤解が生じることがあるのです。例えば、「〇〇は、いいよ」と書かれているだけでは、とてもいいとほめているのか、もういらぬと断っているのか、判断することができません。

今は、マスクをしていたり、距離をとってもらったりしているので、不自由なところがありますが、言葉を大切にするとともに、声や表情なども意識して会話をしてみてください。皆さんの高校生活に広がりが出てくると思います。

感染防止対策に関連して

経済社会活動が再開されつつあり、感染症は収束しているように感じている人もいるかもしれませんが、決して気を緩められる状況ではありません。先日紹介したカミュの『ペスト』（新潮文庫）は、次のような文章で締めくく

られています。少し長いですが、引用します。

「事実、市中から立ち上る喜悦の叫びに耳を傾けながら、リウーはこの喜悦がつねに脅やかされていることを思い出していた。（中略）ペスト菌は決して死ぬことも消滅することもないものであり、数十年の間、家具や下着類のなかに眠りつつ生存することができ、部屋や穴倉やトランクやハンカチや反古のなかに、辛抱強く待ち続けていて、そしておそらくはいつか、人間に不幸と教訓をもたらすために、ペストがふたたびその鼠どもを呼びさまし、どこかの幸福な都市に彼らを死なせに差向ける日が来るであろうということ。」

7月1日は「国民安全の日」

「ハインリッヒ」はドイツ語圏の男性の名前です。この名前は、英語ではヘンリーとなり、フランス語ではアンリ、スペイン語やポルトガル語ではエンリケとなります。イギリス王室には、時々話題となるヘンリー王子がいますし、サッカー好きの人ならフランス元代表のアンリ選手を思い浮かべるかもしれません。歴史好きの人にとってエンリケとくれば、大航海時代の幕を開いたポルトガルの航海王子のことでしょうし、ハインリッヒ（ハインリヒ）は、聖職叙任権をめぐるローマ教皇グレゴリウス7世と対立した神聖ローマ皇帝ハインリヒ4世のことをカノッサの屈辱（1077年）とともに思い出すかもしれません。

しかし、ここで紹介したいのは「ハインリッヒの法則」というものです。アメリカの損害保険会社の安全技師であったハインリッヒが発表した法則です。「同じ人間が起こした330件の災害のうち、1件は重い災害があったとすると、29回の軽傷、300回の傷害のない事故を起こしている」というもので、300回の無傷害事故の背後には数千の不安全行動や不安全状態があることも指摘しています。災害や事故の背景には、ヒヤリ、ハッとした危険要因が数多くあるということであり、その対応を講ずることが必要だということです。取り返しのつかない大きな事故（交通事故も含めて）の確率をできるだけ下げするためには、不安全行動や不安全状態をなくしていくことが鍵になります。統計的な数字ですから同一の人間による330回もの事故を想定できますが、現実には、重大事故がいつ起きるか分からないのであり、起こってしまえばそれまでです。ヒヤリ、ハッとした、そのすぐ先に、とんでもない大事故があるのです。交通ルール、しっかり守ってくださいね。